



【ケース②：入所時より歩くことができなくなり再び歩くことを強く望まれていました。当初は、手すりを持たずに立位保持することが困難でしたが、ご本人の努力で徐々に機能が上がりました。歩行訓練も同時に熱心に行われ、施設内での移動方法を歩行器で行われるようになりました。その後、浴槽のまたぎや立ち座り、更衣の練習されて現在は個浴で入浴をされ自立度が上がりました。また、外出では歩行器でレストランや文化会館で楽しむことができるようになりました。】

入所時より「施設内で歩行ができるようになりたい。」という明確な目標がありリハビリテーションの参加には積極的だった。しかし、端坐位は行う事ができるが手すりを放し立位をとると姿勢を保持することが不可能であった。平行棒歩行は可能であるが、歩行器での歩行は安定せず前方に突進する動きが見られ、実用性は低かった。また、その他のADLもトイレでは手すりを把持して起立、立位保持は可能だがズボンや下着の上げ下ろしは介助が必要であった。

まず、取り組んだことは手放して立位を保持する事を主目的とした機能訓練を行った。訓練を継続することで静止した状態で立位保持することが可能になった。次に上肢運動を伴いながらの立位保持の訓練を行った。拳上や下肢をさする動作などを立位を安定して行うように行った。歩行訓練では左右の運動の均等化や歩行器に荷重をかけすぎないように歩行を行う訓練を実施した。

介入を行ったところ、トイレ動作の自立度が上がり日中は自立でトイレに行く事が可能になり現在では気兼ねなくご自身の行きたい時にトイレを使用されている。施設内の歩行ではコマ付きピックアップ歩行器で自立で移動をされている。居室内のわずかな距離は歩行補助具を使用せず歩行を行う事が出来ている。

動作の安定性も上がり、自立度が上がったため入浴の方法を変更を提案したところ快諾いただいたため機械浴から施設内の個浴への移行のための訓練を行った。現在は入退浴や、立ち上がりの介助は必要であるが安全に入浴が可能となっている。また、先日外出して食事やコンサートの鑑賞が行われた。その際も歩行器で移動して時間は時間がかかったが、楽しいひと時であったと満足されていた。

今回の介入はまず機能訓練を行い、手すりを持たずに安定した立位をとることを主としてそこから歩行、トイレ動作、入浴動作をへと発展する過程で行った。立位の安定性の向上からその他の動作能力が向上した。

苦労した点としてはご本人の歩行への意識が高いため歩行以外の機能訓練の必要性を理解いただくことに苦労した。

今後も引き続き外出やお家への一時帰宅、施設内での生活を希望されており可能な限り自立支援や外出支援を行っていきたい。



【自宅へ外出（車椅子）】



【亡夫へ挨拶】



【歩行器で外出】